



HSK
しもつき
霜月号
NO.132 2011.11.10号
Advocate

1973年1月13日第三種郵便認可 HSK通巻番号476号
発行/2011年11月10日(毎月10日発行)
編集者/我妻 武
住所/〒063-0812
札幌市西区琴似2条5丁目3-5 マンションMOMO1F
特定非営利活動法人 札幌・障害者活動支援センターライフ
TEL 011-633-6666 FAX 011-613-9323
H P <http://npolife.net/>
発行/北海道障害者団体定期刊行物協会
定 価/100円



複数事業所連携セミナー 第2弾 Part 1

障がい者等の就労を考える in 釧路

共働事業所もじや所長 下斗米 貴行

11月3日・5日に釧路と札幌で障害者の就労を考えるセミナー第2弾が行われました。

第1弾は社会的事業所の役割を中心としたセミナーでしたが、今回はその社会的事業所の話しも含まれますが、障害者と共に働く場作りや長年の実践を行ってきた話しが中心となりました。震災や原発事故などがあり、それを契機に働くこと等で今後一層排除される人が出てくる中でこのセミナーは意味があるものとなりました。

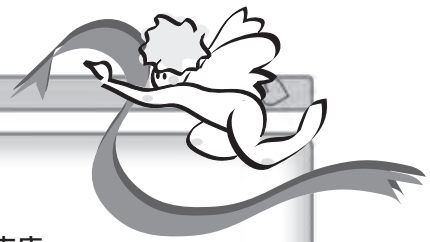
障害者に限らず所得保証の問題が大きく取り上げられますが、所得が保障される前の働く環境や働きやすさが、長く仲間と働ける理由になるのかなと思いました。この点は障害のあるなしに関わらずですけどね。

今回のセミナーが終わった後に、私が所属している部署の障害者従業員と差別について話しをしました。差別とを感じる瞬間は特になく、むしろ社会や人が合理的配慮ができていて、できてきた瞬間に差別があったのかと感ずると言っていました。普通学校に入学できなかったり、働けなかったり。結局社会が枠で障害者をとらえてる限り差別がなくなることがないんだなと思いました。

共生や共働という言葉が美名と揶揄されないように、差別や所得保証の問題を仲間としっかり考えていきたいと思いました。

最後に、企業組合ウェルフェアグループや共同作業所ステップをはじめ、釧路の皆さんには大変お世話になりました。

～ライフ年末カンパのお願い～



NPO札幌・障害者活動支援センターライフでは、設立して20年(法人化して10年)が経ちますが、これまで何か行動を起こす時に目標を設定してカンパのお願いをしてきました。今回は皆様方に年末に向けてのライフ運営資金を確保するため年賀状などの印刷、年末年始の物販についてのご協力をお願いします。また、年末支援カンパもお願いいたします。

今年3月にあった震災の影響や世界的な不況で仕事量が減っており、ライフの運営が非常に厳しい状況です。大変な状況にはならないように努力していますが、ライフの運動に共感する皆様方からの応援も必要です。どうぞよろしくご協力をお願いします。

振り込み先

- | | |
|--------|--|
| 北洋銀行 | 琴似中央支店 |
| 普通預金 | 4606735 |
| 加入者名 | 特定非営利活動法人
札幌障害者活動支援センターライフ
理事長 深澤 正義 |
| 札幌信用金庫 | 琴似支店 |
| 普通預金 | 3296744 |
| 加入者名 | 特定非営利活動法人
札幌障害者活動支援センターライフ
理事長 深澤 正義 |
| ゆうちょ銀行 | |
| 振替口座 | 02710-4-63485 |
| 加入者名 | NPO札幌・障害者活動支援センターライフ |

『 釧路大会に参加して 』

釧路企業組合ウェルフェアグループ 和泉 宣也

花田先生のお話の中で、次の言葉が印象的でした。「一人で生きていけることが自立ではなく、周りが一人前と認めて初めて自立と言えるのではないか」「能力は個人に属することではなく、社会的・集団的関係の中で決まってくるのではないか」という問いかけです。私は、「障害を持っている方が、以前より出来ることが多くなれば、きっとご本人のためになる」という考えで日々取り組んで参りました。私の心に新たな価値が置かれた瞬間でした。

「わっぱの会」斎藤代表のお話は、セミナーから3週間経った今でも頭から離れません。「障害者と職員の一律同額の分配制」という仕組みのことです。今の私の価値観をはるかに上回る考え方でした。正直に申せば、「自分に勤められる職場だろうか」と自問自答が今でも続いています。支



NPO法人わっぱの会代表、NPO法人共同連事務局長
斎藤縣三さん

援の質を高めることに重きを置いてきた私にとって、どう吸収したら良いのか、そこから考えさせられるお話でした。魂

を揺さぶられました。

「滋賀県ねっこ共働作業所事業代表」白杉さんは、お人柄が前面に出た楽しいお話をして下さいました。私は人間の根源的な欲求を大切にしておられる印象を受けました。「卒業して就職するところなかったら困るな、ほなみんな考えよか」というのが始まりだったようです。すごく自然で温かい感じがしました。私はついつい「すべきこと」を探して迷ってしまいます。白杉さんの明るさにハッとしました。

札幌「NPOライフ」石澤さんのお話を聞いて、社会を前に進めていくのはこういうことなんだと肌で感じる事ができました。市役所との関わりをはじめとする環境改善の取り組み、使えそ

うなものは何でも使ってみようとする貪欲さ。自分にも出来る事がまだまだあるはずだと思わせてくれるお話で、火を点けてくれたような気がします。

講演された皆さま、スタッフの皆さま、遠い釧路まで来て下さり有難うございました。

『 釧路でのセミナーでは… 』

きばりや所長 岡田 悟

釧路でのセミナーが行われたのは朝晩の冷え込みが感じられるようになってきた11月3日のことでした。前日の9時に札幌を出発し、汽車にゆられること4時間。ようやく釧路へ到着。北海道はなんて広いのだろう。そして到着した私たちが待っていたのは釧路の静けさでした。スローライフに丁度いいと思いつつも、事業を展開する難しさを感じざるをえませんでした。

さて、本題のセミナーはというと、熊本県で大学の教授をしながら、社会的事業所へ積極的に取り組みをしている花田さんをはじめ、名古屋のわっぱの会の斎藤さん、滋賀県ねっこ共同作業所の白杉さん、我がライフ事業本部長の石澤氏が長年活動を続けてきた中で感じたことや、大切にしてきた理念などを時には冗談を交えながら報告してくださいました。

特に花田さんの『能力主義の否定』というフレーズ。もちろん共同連全国大会に5回も参加している身ではあるので、なんとなく理解してるはず…。ただ、下請けの作業を行ってる事業体としては納期と事業規模の関係上、少しあきらめの部分もある現実の中、改めて話を聞くと再びモチベーションがあがるものを感じました。

また、白杉さんの事業所における物事の進めかた。一人一票を持ち、全員の賛成がなければ決定されないというシステムに関しては、参考にしなければならないものが多いように感じました。が、実際今のライフの規模で行う難しさを感じたのも事実。今の体制でどうすれば、ライフのすべての人が同じ方向を向いて進んでいけるかを考えさせられる報告でした。





NPOライフ研修会 Vol 03

俺は、なぜここにいるのか ・なぜ今を行うのか ・なにを基軸にするのか

滋賀県ねっこ共働作業所事業代表
全日本育成会運営委員

白杉 滋朗 さん

『ねっこ共働作業所について』

たねや所長 島 明子

10月24日(月)にライフ研修会ということで「ねっこ共働事業所」の白杉滋郎さんを招いて講演を聞く機会を貰うことができました。

ねっこ共働事業所は印刷業ということで専門知識を多く必要とする業種であることは、私自身ライフ入社当初、「もじや」にいたので少しばかりではありますが分かるつもりです。さらに、もじや時代に滋賀へ見学に行かせてもらったこともあります。機械も充実していましたし、各場の持ち場がしっかり分担されている様子が伝わってきました。そんな中、「アセロラドリンク事件」(4p参照)の話聞きき、各自休憩時間がフリータイムみたいなもの！というフリーな職場環境。でも、せかせか働く者もゆっくり働く者も思いやる気配りを忘れない…とても素敵です。障害あるなし年金あるなしに関わらず、もちろん生産性に関わらず、月最低12万円、親元を離れ自活生活する者には18万円を保障している。これが共に働くことなんだと考えさせられるばかりです。白杉さんとは障害者等の就労を考えるセミナー釧路会場に参加した後の交流会で何度か話をする機会がありましたので、今回のライフ研修会で気になったことを直接聞いてみました。白杉さんは「ねっこでは多数決はありえへん！確信があることでも1人でも反対したら進めない」とおっしゃっていましたので、なぜか聞いてみたところ…「それが共働や!!当たり前やろ!!」という答えを頂きました。白杉さんの「男らしさ」と共に「共働」という言葉の深さに対し、まだまだ学びが足りない自分自身気づかせて貰いました。

『秋の夜長の勉強会』

もじや 西田 彩

もじやに勤務して1ヶ月半が経ち、通勤途中に見上げる青々としていたイチョウの葉が黄金色への美しいグラデーションを彩り始めたころ、本部

で行われる勉強会に参加することになりました。

このような会は入社して初めてでしたので、普段はなかなか会えないスタッフやメンバーの皆さんで賑わう会場の中、どんなお話が聞けるのかと少し緊張ぎみに席へつきました。

事前に配布されたレジュメに並ぶ、気になる項目を興味深く眺めていると、滋賀県ねっこ共働作業所事業代表 白杉滋朗氏が、よく響く軽快な関西弁とともに現われました。「共に働くこと」への実践経験や事業内容の紹介などを拝聴するものだとばかり思っていたのですが、白杉氏が語りはじめたのは自らの生い立ちや幼少期からの体験談でした。なるほどそうかとレジュメに書かれていたことをなぞりながら、感情を込めて赤裸々に自身の感じたことや想いを伝えてくださった白杉氏にすっかり聞き入ってしまいました。そして人生で出会った人や体験が、その人の生き方に大きく影響するのだと改めて気付かされました。

「人は本当に感動した時にしか変わらない」なにかの本で読んだのか、私の心にずっと残っている言葉です。まるで昨日のことのようにお話してくださった体験の一つひとつも、白杉氏がとても心を揺さぶられた出来事であり、現在の生き方の礎となっているのだということが伝わり、私もこれまでの経験を振り返りながら、これから訪れる出会いや出来事も大切にしていきたいと自分をみつめ直す貴重な時間となったのでした。



札幌市リユースプラザ〒004-0003 札幌市厚別区厚別東3条1丁目1-10
TEL 011-375-1133 FAX 011-375-1155**札幌市リサイクルプラザ 発寒工房**〒063-0835 札幌市西区発寒 15 条 14 丁目 2-30
TEL 011-662-7815 FAX 011-662-7816<http://www.reuseplaza.jp/>**和の中**

発寒工房館長 ジョン ウルク

いつもの冬だとは言え、私は北海道の寒さには慣れません。昨夜私達が寝ている間に、今年の初雪がこっそりと降りました。韓国では初雪が降ると愛する人とお祝いをします。レストランで食事をしたり、花束をプレゼントしたり、メールに愛を込めてメッセージを送ったりします。雪が降り、道は渋滞しますが人々は大喜びです。

でも、この北海道の雪は車のクラクションのように、人々に警告する象徴のようです。

今年、初めてこの発寒工房で冬を迎えますが、これからの寒さと雪の量が心配です。幸いにも工房は大きな清掃工場の中にあるので、除雪や暖房の心配はいらなようです。ただ、広いヤード(保管庫)には暖房設備がないので作業が大変かも知れません。それでも厚別リユースプラザと西地区リサイクルセンターの皆さんのご苦労と比べると大したことはないと思います。

現在、工房の中には5人の障害者スタッフがいます。また、4人のベテランのシルバーさんが共に働いています。今年4月にこの事業を始め、やっと仕事の流れがわかるようになったけど、未だ々慣れていないことで一杯です。

そんな中で、工房の皆さんが働き易かったかどうか今一番気になる所です。最近、障害者スタッフの1人が自分の悩みを打ち明けてくれました。『自分は人と話をするのが難しい』と。そして、『自分の考えを相手に上手に伝えることが出来ない』とのことでした。それが原因で、工房の中のことが気になり、仕事に集中出来ないとのことでした。よく話を聞いてみると、話し方に気を使って欲しいことと、仕事の下使いのやり方は疲れると言うことでした。例えば物事で、あれを持って来て、あれをやって、それはやめろ、そう言う話し掛けが重なりと彼らにはストレスになるのです。それを、『やってくれないか?』『頼むぞ』『困っていることはないか?』などの声かけが欲しいと言う事なのだと思いません。共に働くと言うのは、お互いに思いやりをもちながら働くと言うことで始まるのではないかと思います。

この前のライフの研修会で「ねっこ」の白杉さんがお話ししてくれた、アセロラドリンクの事件のようなことが工房でも起きるかも知れません。工房は工場の生産ラインと違って人と人とが有機的な関係で行くことが必要なのです。これからもっと一人一人に気を配って仲間として共に働くと言う事を共感したいです。また、人との繋がりを深めて仕事を進めたいです。

個人的には冬を迎えるために一番大事な仕事があります。それは、冬の漬物作りです。その中でキムチは量的にも作り方にも一番気を配らないとならない物です。

皆さん声を掛けて下されば美味しいオリジナルキムチをご馳走しますよ! 昨年好評のハムもありますよ。こちらは熟成までに時間が掛りますが…。

**アセロラドリンク事件：**

ねっこ共働作業所の白杉さんが、午後一で納品しなくてはならない急ぎの仕事を、汗をダラダラ流しながら必死にやっていたら、共に働くダウン症の青年が「一服しいや〜」とアセロラドリンクを買ってきてくれた。わずか100円の物ではあるがとても感激し、うかつにも涙を流してしまった。そのことで我に返り、丁寧に仕事をする事ができたという心温まるお話。



私の実践『4R』

札幌市リユースプラザ 森 絵津子

10月18日にたねやから移動となりあっという間に3週間が経ちました。事務の経験がなくて、初めは不安でしたが、リユースプラザの職員皆さんが優しく、楽しい方ばかりで、毎日楽しく仕事をしています。

私は以前から毎日多量に出る家庭のごみを減らすように、工夫をしていました。しかしその努力の結果は???といつも疑問でした。

リユースプラザで『4R』について教えてもらい、改めてごみ減量に取り組んでいます。

皆さん『4R』はご存知ですか？

R①→Refuse (リフューズ) ◆ごみになるものは「断る・買わない・持ち込まない。」

買い物の際、マイバックを持つ！ 過剰な包装を断る！

割り箸や使い捨て商品なるべく利用しないこともRefuseの1つです。

私は最近、詰め替え商品を利用し、計画的に必要なものを必要な量だけ買うようにしています。

R②→Reduce (リデュース) ◆ごみを出さない・作らない。

料理の作り過ぎに気を付け、捨てないように心がけることで食費の削減にもなり一石二鳥です！

また、ティッシュペーパー、ラップなどの消耗品の使い過ぎに気を付けるとごみ減量につながりますよ。

R③→Reuse (リユース) ◆繰り返し使えないか、捨てる前にもう一度考える。

私は洋服、趣味のものはフリーマーケットやリサイクルショップを利用し、家には不用品を置かないようにしています。思いがけず高値で買い取ってもらえるという嬉しいおまけが付くこともあります(^-^)

ベビー関連商品、キャンプ用品などはレンタルやリースがオススメです。

壊れたものは直して使う《リユース》をどんどんと伝えていきたいです！

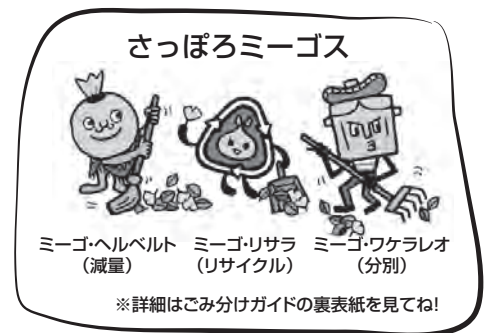
R④→Recycle (リサイクル) ◆再資源に戻す。

毎週皆さんがごみステーションに出す、資源物の「容器包装プラスチック」「びん・缶・ペットボトル」や、資源回収に出される「新聞・雑誌・ダンボール」は、それぞれ資源選別センターや回収業者によって選別され、資源化工場・製紙工場などで処理されリサイクル商品に生まれ変わります。例えば、ペットボトルは繊維製品(フリース等)に、使用済みの食用油はバイオディーゼル燃料になってごみ収集車を走らせています。

リユースプラザでお仕事するようになってリサイクル商品に目が向くようになりました。そして、リサイクルに多大なエネルギーとお金が必要なこと、正しい分別で出すことが大事なことを知りました。

厚別リユースプラザでは、火曜日から日曜日まで毎日資源回収を行っています。ダンボールや雑誌類などの資源になるものをお持ち下さい。一緒にリサイクルについて語り合いましょう。

「ごみの減量」と聞くと難しそうに聞こえます。しかし毎日の生活で少しだけごみについて考えて自分のできることから皆さんも始めてみませんか？



～西田職員!リユースプラザ施設見学で大活躍!!～



去る10月21日(金)10時から山鼻中学校2年生7名が施設見学に来てくれました。

「リユースプラザの施設説明」と「再加工・リサイクル例について」というテーマを持った中学生からの質問に回答しました。

後日、生徒たちから心こもったお礼状が届き、大感激の西田職員でした。

アウトソーシングセンター 元気ジョブ

札幌市中央区南 8 条西 2 丁目 5-74
市民活動プラザ星園 103
TEL 011-596-6581
FAX 011-596-6582
E-mail:genki@hatarakutei.jp



「マッチング事業」に求められる『内容』…?

大加瀬 敦

元気ジョブの一員となって早一年半。

福祉事業所と企業（もしくは官庁）のマッチングをしてきた訳ですが、ふと考えました。一体どんな仕事を受注側（作業所）は求めているのか。発注側はどんな仕事を作業所へ出したいのか。

後者は単純。相手の要望に応えれば良い…と思うかもしれませんが、意外とそうでもないようです。実際に頂いた仕事の中で企業に営業をし、先方からこの仕事を頼みたいなどと言われたものは殆どありません。大抵は同業者からの紹介や類似業務を作業所をお願いした事があってこちらに連絡が来るケースだと思います。では、どうやって営業すれば仕事を獲得出来るのか？元気ジョブは市の委託事業という存在ですので、どこかの事業所の商品を持って廻るなどということは出来ません。ライフの業務で言うと、もじやの印刷だけの営業をすることも出来ない訳です。ですから、色々な種類の仕事が出来るという事を前提に、お客様の求めるアイデアや企画をこちらで提案しながら営業しなければいけない…正直、かなり難しいです。

反対に前者ですが、その作業所によって受注可能な仕事の種類が違うのは当然です。ですが、種類や量だけを気にしていて良いのかとも思ってしまうのも事実。

- ・単価は見合っているのか？
- ・利益（工賃・給与）が上がるのか？
- ・就労のための訓練になっているのか？
- ・雇用機会に繋がるのか？
- ・社会参加の実感が得られるのか？
- ・地域貢献（参加）が出来ているのか？

それぞれの作業所で大事にしていることは違うでしょう。それを可能な限り見極めなければならない…これも難しい。発注者・受注者双方に喜んで貰えるマッチングを目指して行きたいと思う今日この頃。なぜいきなりこんな話かという、亡くなられた某社長の名言――

『多くの場合、人は形にして見せてもらうまで、自分は何が欲しいのかわからないものだ』
を自分にちょっと置き替えてみただけです（笑）。

アルペンでの絵画展示を通じて

中山 庸子

先週からともに福祉会の絵画展示会が始まり、11月12日（土）にギャラリー喫茶アルペンまで設置の具合を見に行ってきました。場所決めのため、ざっくり置いた状態から、ピアノ線を張り絵をかけて、高さや幅の調整をしていくうちに作業はだんだん進み、スポットライトを浴びて気持ち良くおさまってきました。

ずーっと見ていると絵の持つパワーが私にも入ってくるような気がします。力強いパワーを感じます。画面いっぱいからみなぎる強さを感じながら、今までの絵とは違うなと思いました。絵が躍動しています。

人物画が1枚ありました。聴覚障害でも沢山の交響曲・ピアノ協奏曲・管弦楽曲・声楽作品を作曲した楽聖と呼ばれているベートーベンです。絵の中から優しくほほえみかけるような表情が、印象に残りました。ベートーベンが26歳の頃に中途失聴者となりましたが、強靱な精神力で苦悩を乗り越え新しい芸術の道に進んでいったのは、世間の誰もが知っていることです。ベートーベンの人物像を描いた人は、最初ドラえものの絵しか描けなかったと聞きました。何年かかって他の物が描けるようになったのか、きっかけは何だったのか気にかかります。



展示は12月29日までですが、ともに福祉会は、沢山の画家がいますので2週間ほどで入れ替えるそうです。新たな絵との出会いを楽しみに行ってみてください。障害者の描いた絵がもっと多くの人に触れるとよいですね。私も、他の地域で無料で障害者の施設に協力してくれるギャラリーをもっと探していこうと思います。

就労継続支援事業A型
共働事業所

・印刷物版下制作・製本
・ポストイング・DM発送
・その他の軽作業

きばりや

共働事業所 きばりや

〒063-0812 札幌市西区琴似2条5丁目3-5 マンションMOMO1F
TEL:(011)644-5533 FAX:(011)613-9323

Cafe de キバリヤ

〒060-0808 札幌市北区北8条西3丁目 札幌エルプラザ3F
TEL/FAX : (011)758-6533

年末に向かって…

雪が降り寒さも増して、寒さが苦手な私には厳しい冬がやってきました。月日が流れるのは早いもので、今年もまた年末が近づいて来ましたね。

さてさて最近のきばりやはというと、ポストイングの仕事がたくさん入っています。もちろん、室内での軽作業もあります。そんな中、今日は軽作業、今日はポストイングと皆で協力し手分けして仕事を進めています。

これから年末に向けて仕事を立て込んで忙しくなってくると思いますが、怪我や病気のないように、また、一つひとつ確実にこなしていきたいと思います。

為井 まどか



複数事業所連携セミナー第2弾

浜中 孝仁

僕たちのセミナーで障がい者等の就労を考えるセミナーは、スライドを見てペンキようにたくさん、いろいろな札幌市教育文化会館できょうがありました。人数はたくさんですごいみんながあいさつして、最後までNpo法人わっぱの会のスライドを見て、バスのえきですいとうのみずをのんで、工場のながいしかいは、カバンでくるくるをみましたです。終わるときに話のセミナー第2弾をしました。



仕事について…

カフェ 大島 隆也

カフェにきて、4ヶ月が過ぎて仕事も少しずつ慣れてきました。

毎日皆と元気で明るく過ごしています。

最初の頃は接客業の経験が全くなくて、不安でしたが、カフェの人達に支えられて、できることが増えてきました。「レジ」や「配達」や「商品のセット」もできるようになりました。まだラッシュは経験が少なく不安が残りますが、まだカフェの仕事は始まったばかりです。

これから自主練習などで更にレベルアップを目指して行きたいです。これからも頑張りたいです。

仕事について…

星 ☆ 悠

自分は誰かに言われるとストレスいっぱいになります。できない時もたくさんありますが、頑張りたいと思います。



～cafe De キバリヤより～

季節は早いもので冬を迎え、街はクリスマス
の賑やかさと煌めきでいっぱいです。

カフェでは寒くなったお陰で(?)ホット
コーヒーが沢山売れています。

毎週来て下さる常連のお客様や近くに來た
からと寄って下さるお客様、沢
山の方に応援していただいでる
ことを日々感じています。

感謝の気持ちを笑顔に変えて
コーヒーと一緒に渡したい
と想います。





コン・ブリオ ひだまり
 〒063-0812 札幌市西区琴似 2 条 3 丁目 2-37
 サンハイム 1 階
TEL 615-4131 FAX 615-4132
 E-mail : konburio@nplife.net

☆キッチン便り☆

とうとう寒～い寒～い、冬の到来です。そしてお鍋がと～っても美味しい季節でもあります。

味噌・塩・醤油・キムチ・トマト等々色々な味が簡単に楽しめ、心も身体も温まる最高の料理ですね。

味付けが面倒なときは、ひだまりで販売している、ゆずの村や 1000人の村 ゆずぼんず醤油などでお召し上がりください。これがまた絶品です！



☆キッチンレシピ!☆

じゃがいもお好み焼き (1人分)

材 料

- じゃがいも…… 100g
- チーズ……………15g
- ロースハム……………20g
- ニラ……………10g
- 卵……………1個
- ながいも……………少々
- 小麦粉……………少々
- サラダ油……………少々
- かつお節……………少々

- ① じゃがいもは拍子切りにし水にさらす。チーズとハムはさいの目に切りニラは適当な大きさに切る。
- ② ながいもはおろしておく。
- ③ 最初にながいもと卵を混ぜ合わせ、次に①と小麦粉を入れて混ぜ合わせる。
- ④ 油をひいた強火のフライパンに具を入れてふたをして弱火で焼く。
- ⑤ 焼けたら皿にのせ、かつお節をかけてできあがり！



お買い物情報

- わらび水煮……………200g 245円
- 竹の子水煮……………200g 398円
- ふきの水煮……………200g 198円

歌登授産所より入荷いたしました
おでん・煮物等にいかがですか？

北海道の大自然の風味を
そのままパック!!



※保存料は使用していません。

札幌会場のセミナー

藤井 孝雄

札幌会場のセミナーで障がいのある人とない人の共に働くこと、東日本大震災による障がい者状況について、わっぱの会40年について、大阪府の箕面市についてのセミナーがありました。

障害のある人とない人の共に働くことでは、高等養護学校の卒業後、就労したりする人と施設へ

の通所される人がそれぞれの道をあゆみます。

長時間の札幌会場のセミナーはこうして終わりました。

ぼくの仕事

余田 知広

キッチンで働いています。弁当洗いをしています。皿洗いをしています。弁当配達をしています。

ヘルパー派遣業務・在宅介護支援 ヘルパーステーション

ゆい
繭結



老育学入門 その3

「人は誰でも老いる。人による個体差はあるにせよ、人はいつか必ず老いる。」

繭結管理者 笠井 衛二

「老い」を言葉で探すと、「老いてなお盛ん」「老いらくの恋」「不老不死」「老骨に鞭」と、お褒めの言葉はないようだ。「老い」とは縁側で終日、ぼんやり庭などを眺めているのがイメージのようで、盛んとか、恋とかは慣用句になるほど特殊事情なんだね。「老い」に未来を示唆する意味は見えず、去りゆく言葉、それも静かに消えていくのが真髓らしい。たしかに「老兵」という響きは、敗走する部隊の後ろ姿だし、「老廃物」などはそのものずばり、差別用語じゃないだろうか。

老いを学ぶから、老いを育てる。

積極的に自分の老いを見つめる中で、もっとも自覚が深く危機感も強いのは、いわゆる記憶の緩み、からくる認知症だろう。

たとえば記憶でこうだ。

眼鏡をかけながら、眼鏡を探すのはまだ初歩で、ある友人は車を自走中、その車のカギを自宅に忘れたと思い引き返し、またある知人は部下の名前を喪失し、思い出すまでの半日、仕事を指示できなかったという。

忘れるという行為は、自分へのマスキングだ。マスキング、それは必要な事のみ、それも一部だけ覆い隠し包み消していく。修正液が一行を消し去る様に、顔だけ残して名前も関係性も塗り消されていく。やがてマスキングだらけの自分と向きあう、哀しい現実。

認知症が怖いのではない。忘れていく自分が恐ろしいのだ。何度もいうがこの段階では、家族の励ましは敵として映る。悟られてはいけない。気づかれたなら罵声を浴びる、叱責を受ける、馬鹿にされるのが怖い。これらは、あくまでも当事者の身勝手な思い上がり、である。

自虐的な悔苦、懺悔はこれまでとして、今回は周りがどのように「老いる」に対応し、家庭や職場でどのように学び、育むのかに触れたい。



「金子満雄医師の早期認知症自己診断」を紹介。以下の10項目をチェックし、4項目以上に○がつけば「小ボケ=軽度」です。

さあ、やってみましょう。


- ① 一日や一週間の計画が自発的に立てられない。たとえば、見たいテレビ番組を挙げられなくなる。
- ② 反応が遅く、動作がモタモタしている。(歩行も手の動きも)前屈みで、いわゆる「ヨチヨチ歩き」をする。
- ③ 同じことを繰り返して話したり、訪ねたりする。一日に同じ事を3回以上話したら問題。同様な症状としては、買い物で同じものばかり買ってくるなど。
- ④ 無表情、無感動の経口になる。ユーモアや冗談が口から出ず、笑顔がなくなった。(と周りから言われる)
- ⑤ ボンヤリしている事が多い。(指示待ち人になる)行動を指示してもらわないと、自分からは何もしようとししない。
- ⑥ 生きがい、目標をもっていない。「何もしたくない」「誰にも会いたくない」「どこへも行きたくない」
- ⑦ 根気が続かない。何でも面倒くさがる。たとえば、新聞を読まなくなる。テレビを見なくなる。散歩も続かない。
- ⑧ 異性に感心がなくなる。衣類やネクタイの色に無関心になる。女性がお化粧をしなくなったら一大事。
- ⑨ 仕事をテキパキと片付けられない。今までできていた家事、庭の手入れなどがいい加減になり、ヘマをやる。
- ⑩ 人の話を聞こうとしない。たとえば、人が話している最中に、自分の言いたい事を言い出す。

いかがですか？

4項目以上に○がついたら、即、病院へ相談に行ってほしいそうです。





— ブッタの言葉 —
雪は消えるのではない
雨に変わるのだ

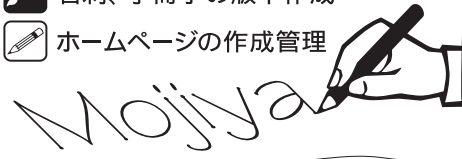




共働事業所 もじや

〒064-0808
札幌市中央区南 8 条西 2 丁目 5-74 市民活動プラザ 星園 104
TEL (011)596-6583 FAX(011)596-6584
E-mail:mojiya@npolife.net

-  印刷・編集・制作・出版・企画
-  テープ起こし
-  名刺、小冊子の版下作成
-  ホームページの作成管理



『 地域移行とは 』

所長 下斗米 貴行

先日出席した会議は、地域移行について「入所施設からの地域移行で障害者は暮らしやすくなったか」というのがテーマだった。

私は専門学校を卒業し、ライフで働くようになって丸5年が経ちましたが、学生のころから、これからは権利擁護を主体とした地域移行が進むというのをよく耳にしました。

実習先でも、退院促進やさまざまな取り組みを行っている施設があった。しかし、あの時から働いた期間を含め、8年経つが、未だに地域移行という言葉は消えない。何故消えないのだろうか。進まない原因はどこにあるのだろうか。

地域へ出すと言っても、未だに住む場所には定員があり、働く場所も定員がある。サービスを受けるには認定区分が必要。ルールは、事務的には必要なことなのかもしれないが、それに縛られていては満足できる生活は望めないだろう。24時間誰かが家に居てくれれば全て良いわけでもないし、所得保障だけで労働が担保されているとは言い難い。

施設から出ても、新しい介助者とのコミュニケーションや信頼関係の問題。というように探せば問題は沢山でてくる。この点から国が示す数値は達成ではなく目標なのかなと首を傾げてします。

結局、地域移行なんてさっぱりわからない。当たり前なことに、数値目標を付けるからわけがわからなくなる。真意はどこにあるのだろうか。国や自治体から移行に関しての予算が付くとなれば本当に進むのだろうか。額面の数字、移行目標の数値、達成したら地域で暮らす障害者にとって十分に満足できる暮らし、サービスは本当にあるのだろうか。

ブームのような地域移行という言葉、もう一度しっかり考えてみるべきではないだろうか。

『 最盛期の始まり 』

三上 宏美

紅葉が終わりに近づいて冬支度をしなくてはならない時期になりました。もじやでは毎年恒例の年賀状印刷が始まっています。制作・工場・営業・もじや全体フル稼働で休む暇なく仕事に追われる一、二ヶ月の繁盛期に入ってます。そうです。稼ぎ時なんです…と言っても残念ながら今はまだ休む暇がありそんなに込み合っている状況ではありません。宣伝になってしまいますが年賀の印刷、チラシの印刷、名刺の印刷等々、印刷の事ならぜひとももじやへお願い致します。デザイン・印刷技術は他に負けません！来年は私の年でもあります辰年です。辰は類の英知を超えて、様々な吉祥をもたらすと



言う伝説の生き物です。どうかもじやにとって良い一年になりますようにと願いを込めながらスタッフ一同気合を入れ直し頑張ります。

『 うれしい報告 』

永島 勝章

先日、道営住宅の申込みが、7年越しで成就することになりました。現在住んでいるアパートは今年の12月で6年目になり、特に冬場は、車椅子が道の真ん中で埋まったときに近隣の方々に助けて頂いたりしました。

施設から出て地域で暮らした当初は、国や市のサービスと家族の協力で何とかやっていけると思っていたのですが、いざ生活をしていくと、様々なサービスだけでは生活が難しく、地域の人たちとの関係が本当に重要だと感じています。

これからも多くの方々に支えられている事のありがたさを忘れずに、頑張っていきたいと思います。



2012年 NPO ライフ 年賀状



担当事業所もじや TEL 011-596-6583
FAX 011-596-6584

オリジナル年賀状印刷受付中！！

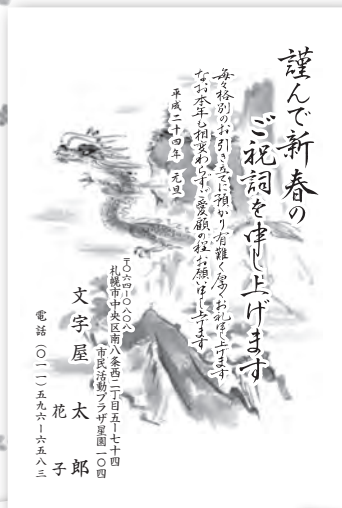
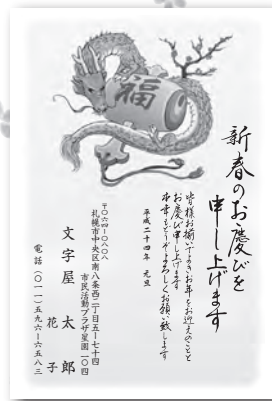
12月15日(木)

- 最終締め切りは、
- 出来上がりは、ご注文から2週間後位になります。

年賀状のチラシと喪中ハガキの見本が、NPO法人ライフのホームページからご覧になれます。掲載のデザインの他にもたくさんの種類がありますので、ぜひご確認ください。また、ホームページから申し込み用紙のプリントが出来ますのでご活用ください。ホームページより閲覧がむずかしい方は、ご連絡いただけましたら送付させていただきますのでご遠慮なくお申し付けください。

ご注文は必要事項をお書きのうえ、メール・電話・FAX・郵送にて受け付けております。どうぞよろしくお願いたします。

HPaddress : <http://npolife.net/>
Mail : mojiya@npolife.net



2011

— NPO 法人 札幌・障害者活動支援センターライフ —

お歳暮特選ギフト

商品番号 1

三大がにセット

- ボイルたらばがにセクション 1.0kg
- ボイル毛がに姿 1 尾 (400g)
- ボイルずわいがに姿 1 尾 (600g)



税込価格 **8,500**円



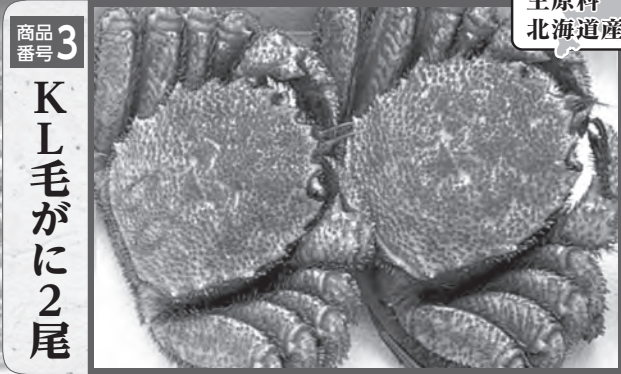
商品番号 2

紅鮭姿切身 (4分割真空)

- 2.0~2.2kg(4分割真空)

税込価格 **6,000**円

北の海鮮めぐり・特



主原料
北海道産

商品
番号

3
K L毛がに2尾

●ポイル毛がに姿2尾(800g)

おすすめ!

税込価格 **4,500円**



商品
番号

4
たたらこ大切
(500g)

素材の持ち味を大切に漬け込みました。

●500g

税込価格 **2,600円**



商品
番号

5
海鮮しゃぶしゃぶセット

- ずわいがに爪ポーション 200g
- しゃぶしゃぶ用たたらこスライス 50g
- しゃぶしゃぶ用帆立スライス 150g
- しゃぶしゃぶ用開きつば 80g
- しゃぶしゃぶ用いかスライス 70g
- しゃぶしゃぶ用昆布 10g
- しゃぶしゃぶのタレ 20g×2袋

税込価格 **4,000円**

あつさり海鮮しゃぶしゃぶは素材が大切。お手軽なれ付きのセットはご贈答、おもてなしに最適です。人気の魚介類を6種類使ったしゃぶしゃぶセットです。それぞれの素材の旨味をご家庭で是非ご賞味ください。



商品
番号

6
4時鮭姿切身
(4分割真空)

●2.0~2.2kg(4分割真空)

主原料
北海道産

税込価格 **5,000円**



商品
番号

7
銀鱈物語6種セット

- 紅鮭西京漬 2切
- しまほっけ甘味噌漬 2切
- 秋鮭甘味噌漬 2切
- 銀鱈粕漬 2切
- キングサーモン西京漬 2切
- トラウトサーモン粕漬 2切

税込価格 **4,500円**



商品
番号

8
いくら醤油漬

●70g(瓶入り)×3本

税込価格 **3,000円**

主原料
北海道産

北海道産の秋鮭卵を原料にした新鮮ないくらを瓶詰めしました。少量ずつの3本入になっておりますので保存にも便利です。贈答用にも最適です。

特選ギフト

NPO 法人 札幌・障害者活動支援センターライフ
 共働サービス たねや
 TEL:011-613-0611 FAX:011-644-0088
 〒063-0804 札幌市西区二十四軒4条6丁目5-32 テラ二十四軒1階

数に限りがありますので、売り切れの際はご容赦ください。

主原料
北海道産

商品番号 9
北海道産限定
開き物セツト

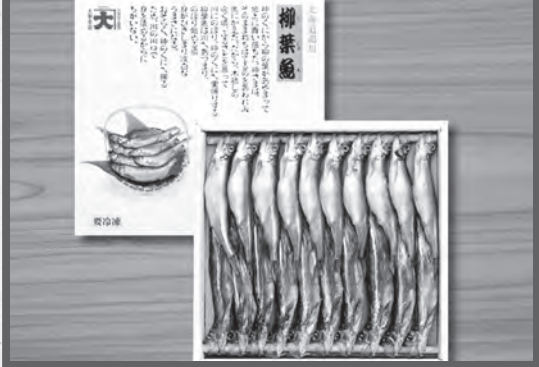


- 開きさんま2尾 ●なめたがれい1枚
- ほっけ開き1枚 ●こまい 200g
- ししやも(オス)10尾

税込価格 **3,500円**

北海道産の原料に限定し、前浜の新鮮で美味しい魚を丁寧に干物にしました。大きなホッケやなめたがれいなど北海道らしい魚の詰め合わせです。

商品番号 10
ししやも



- オス10尾 ●メス10尾

おすすめ!
税込価格 **2,700円**

商品番号 11
紅鮭半身切身



- 1.0~1.1kg

おすすめ!
税込価格 **4,000円**

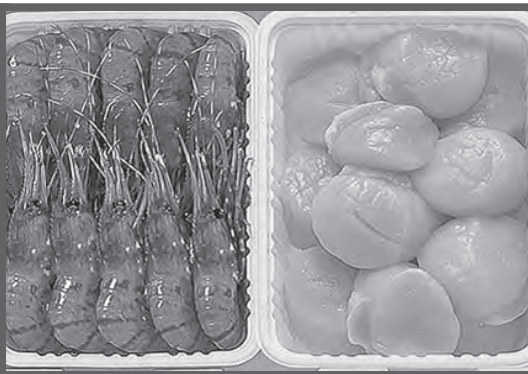
商品番号 12
たらばがにむき身
(500g)



たらばがにを食べやすいむき身に加工しました。

●ポイルたらばがにむき身 250g×2個
税込価格 **4,500円**

商品番号 13
亘ぼたんえび&帆立



- ぼたんえび 500g
- 帆立貝柱 500g

税込価格 **4,500円**

*原料事情により、サイズは写真と異なる場合があります。

主原料
北海道産

商品番号 14
いか物語



- 真いかそうめん1P ●一夜干し真いか1枚
- いかめし2尾1P ●朝いか沖漬1P
- 田舎のいか塩辛 200g

税込価格 **3,000円**

豊かな海に育まれた北海道の海の幸。その自慢の味をご堪能ください。

F A X または電話にてご注文を受付けております
 NPO 法人 札幌・障害者活動支援センターライフ **FAX: 011-644-0088**
 担当事業所 共働サービス **たねや** **電話: 011-613-0611**

お 歳 暮 申 込 書

お届先	お名前	フリガナ			電話番号			
					() -			
	ご住所	郵便番号 (-)						商品番号
	① のし	有・無	→	のし有の場合		頭書き お名前		
商品金額		円		送 料		円 合計金額		
お支払方法		現金・郵便振替		配達希望日		月 日 ~ 月 日		

お届先	お名前	フリガナ			電話番号			
					() -			
	ご住所	郵便番号 (-)						商品番号
	② のし	有・無	→	のし有の場合		頭書き お名前		
商品金額		円		送 料		円 合計金額		
お支払方法		現金・郵便振替		配達希望日		月 日 ~ 月 日		

差出人	お名前	フリガナ			電話番号		
					() -		
	ご住所	郵便番号 (-)					

※送料について

クール宅急便	道内	850円	道外	1,350円
--------	----	------	----	--------

一部地域を除き、全国配送可能（沖縄県、離島は別途 300円が加算されます）
 ※配送不可エリア：福島県の南相馬市（小高区のみ）、双葉郡の浪江町、双葉町、大熊町、富岡町、楡葉町の配達はできません。

※お支払方法について

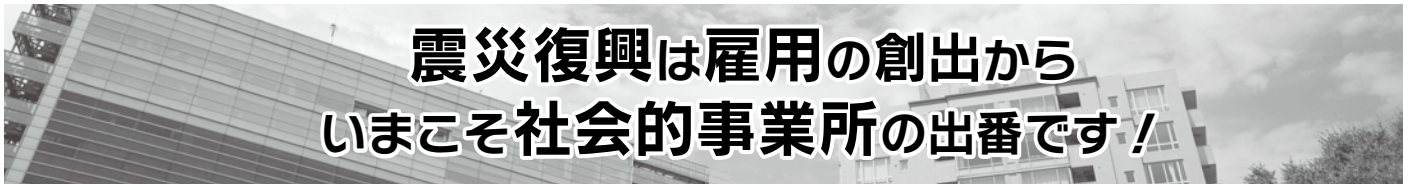
現金、又は銀行振込にてお願いいたします。

北洋銀行 琴似中央支店 4616684 特定非営利活動法人 札幌障害者活動支援センター たねや 理事長 深澤正義

※発送について

お届けまで 1 週間～10 日程かかる場合がございます。ご了承ください。

送料は別途かかります



npolifebooks

NPO ライフ
ぶっぼろ人間福祉
ブックレット

02

誰もが働ける社会を

講座
「障害者等の雇用を考える
社会的事業所の役割」報告集

公は制度がないと動かないし、儲からないと
民は動かないけど、公でもない民でもない、
この社会の我々の生き方というのを
とりあえず「社会的事業所」と呼ぼうか

——— (株)ナイス代表取締役 富田 一幸

今年の1月に開催したセミナー
「障害者等の就労を考える
社会的事業所の役割」の
講演記録が出来ました！

社会的困難を抱える人たちとの「共働」をめざす、「社会的
事業所」制度の法制化は急務であります。

社会的事業所とは何か？

その理念と実践の取り組みが解りやすく語られています。

NPO ライフブックレット No.2
『誰もが働ける社会を』 2011年6月30日発行
定価 1,000円(送料別) A5判 140 ページ



npolifebooks

さっぼろ人間福祉
ブックレット

01

この秀ルース
加藤 孝

講演録

収容施設は
もういらな
いと思っ
てまで

NPO法人 札幌・障害者活動支援センターライフ

私たちは「福祉」という言葉を好まない。それは、
「福祉施策」を必要とする人たちを見下したときに使わ
れることが多いように感じられるから…

本来『「人間福祉」であるべき「福祉」が、今、「制
度としての福祉」になりさがっている』という社会福祉
法人この実会の加藤孝さんの言葉に触発され、『さっぼ
ろ人間福祉ブックレット』を発行する。

NPO ライフブックレット No.1 2008年8月31日発行
『収容施設はもういらな
いと思っ
てまで』
定価 840円(送料別) A5判 72ページ

●お申し込み

NPO法人札幌・障害者活動支援センターライフ

札幌市西区琴似2条5丁目3-5 マンションモモ1F
TEL:011-633-6666 FAX:011-613-9323
mail:honbu@npolife.net
H P:http://npolife.net/

私のオススメ

時代に不感症ではられない 広井良典著「創造的福祉社会」 「成長」後の社会構想と人間・地域・価値

理事 織本 義昭

ヨーロッパ債務危機とTPP問題が連日新聞紙上をにぎわしています。今年はその忌まわしい大震災そして原発事故。「大変な時代」だとは感じていますが、どう見ればよいのかわからないことが多くあります。

本書はいわゆるHowToものではありません。「成長」後の社会構想と人間・地域・価値という副題にみられるように人類がこの地球に誕生してからの永きにわたる歴史のなかで現代＝「今私たちがどのような時代を生活しているのか」をとらえていこうとするもので意欲あふれるものとなっています。

日本シリーズも終わり野球もオフシーズンにはいったので冬の夜長に新書版で読みやすいたまには硬いお薦めの1冊です。

併せて「コミュニティを問いなおす」

(2009、ちくま新書)を読めばより広井の主張が身近になるぞ。



出版社：筑摩書房 (2011/7/7)
価格： ¥903 (税込)

ご協力ありがとうございます

賛同会費

北野 みどり様

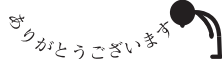
特定非営利活動法人
北海道ワーカーズ・コレクティブ様

寄付金

今泉 省吾様
石澤 利夫様
藤井 勇雄様

アドボケ購読料

今井 孝子様
太田 隆男様
西川 捨克様



編集後記

早いもので、もう雪の季節です。そう師走です。街の中も忙しいのですが、ライフの各事業所のみんなも忙しく動いています。しかし、いつもの年に比べると少し動きが少ないかもしれません。世界的な不況のせいでしょうか、震災で仕事が減っているのでしょうか。現実問題としてライフへいただくお仕事が減っています。少々頭が痛いのですが、何とか頑張るしかありません。しかし、精神論だけでは厳しいのも事実です。読者の皆様方からの印刷や年末年始ギフトの注文をいただくことや、カンパをお願いするしかありません。どうぞよろしくお願いいたします。(タケ)

～年末年始休業のお知らせ～

平素は格別のお引き立てを賜り、厚く御礼申し上げます。

誠に勝手ながら、NPO法人札幌・障害者活動支援センターライフは下記期間におきまして、年末年始の業務を休業させていただきます。

【年末年始の休業期間】

2011年12月30日(金)～2012年1月3日(火)
2012年1月4日(水)より通常業務を再開致します。

年末年始休業に伴い、ご不便をおかけ致しますが、何卒ご了承のほどよろしくお願い申し上げます。

アドボケイト 霜月号(第132号)

2011年11月10日発行(毎月10日発行) HSK通巻第476号

1973年1月13日第3種郵便物認可

発行人/北海道障害者団体定期刊行物協会
細川 久美子

〒063-0868 札幌市西区八軒8条東5丁目4-18

編集人/NPO法人札幌・障害者活動支援センターライフ
事務局長 我妻 武

〒063-0812 札幌市西区琴似2条5丁目3-5マンションモモ1F

TEL 011-633-6666 FAX 011-613-9323

E-mail honbu@npolife.net

ホームページ <http://npolife.net/>

郵便振替口座 02710-4-63485

定価 100円